青少年育成センターだより

第２０６号　２０２５．５．１５

防府市教育委員会生涯学習課
青少年育成センター
０８３５－２５－２９２２

ＳＮＳの規制について考える（１）

ある日のレストランでのことです。それは、敬老の日でした。

おじいちゃんとおばあちゃん、そして孫と思われる中学生らしい女の子と小学生らしい女の子の４人が入店して来ました。敬老の日らしい４人だったのでほほえましく感じながら様子を見ていると、４人はメニュー表を見て、食べたいものを決め、店員さんに伝えました。するとすぐに、孫２人はスマホを取り出し、操作し始めたのです。おじいちゃんとおばあちゃんは、その姿をただ見つめるだけでした。みなさんはこのシーンをどのように考えられるでしょうか。

私は、「おじいちゃん、おばあちゃん、かわいそう」と思いました。おそらく、４人は敬老の日のお祝いという目的で来ていたに違いありません。普段一緒に生活していないのであれば、話したいことはたくさんあったのではないかと思います。私は、そんな大切な時間をスマホに奪われてしまったおじいちゃん、おばあちゃんに同情してしまいました。もし、私であれば、「一緒に話をしようよ」と声をかけたのではないかと思うのです。

みなさんの家庭ではどうでしょうか。親子の団欒時、家族の団欒時に同じようなことがあるのではないでしょうか。せめて、一緒に食事をするときにはスマホはやめてほしいと思いませんか。

このように、スマホの利用についてはコミュニケーションに影響を及ぼすこと以外にも、「いじめや誹謗中傷」「児童ポルノ」など、ＳＮＳに起因する子どもへの被害が大きな問題となっています。警察庁の発表によるとＳＮＳをきっかけに犯罪被害に遭った子どもは、２０２３年には１６６５人です。そして小学生が巻き込まれるケースも増え、１０年前の３倍以上になっているそうです。いかがでしょう、今のようにＳＮＳの利用について子どもに自由にさせておいていいのでしょうか。

ご存知の方も多いと思いますが、オーストラリアでは昨年１１月、１６歳未満の子どもがＳＮＳを利用することを禁止する法案が可決されました。また、オーストラリア以外にも子どものＳＮＳ利用年齢を法律で制限しようという国もあるようです。しかし、日本では、法律はありません。どうすれば子どもをＳＮＳの被害から守ることができるのでしょうか。

今家庭でできることは、利用についてのルール作りでしょう。例えば、

・利用時間を制限する（午後９時以降は利用しない。食事中は利用しない。等々）
・スマホよりも家族でのコミュニケーションを大切にする
・子どもの手元に一日中は置かない。午後９時以降は、親に預ける（親が見てもよい）

などが考えられます。

そして、お父さん、お母さんのスマホの利用についても振り返ってみてください。子どもと一緒にいる時にスマホを見ていませんか、子どもが声をかけた時にもスマホを見ていませんか。子どもは、親の背中を見て育ちます。親自身のスマホの利用について見直しをすることで、子どものスマホ利用の仕方が変わるかもしれません。

青少年育成センター　指導員　藤村